

●技術情報

Q&A

[3] 農薬効果

Q3-1 農薬として登録されていますが、どんな病虫害に効きめがあるのですか？

A3-1 日本では農薬を製造・販売するには、その効果を証明する試験成績のほかに作物への残留性や人間への毒性などを調べ安全性に関する証明が必要です。石灰窒素もこれらの試験をすませています

昭和32年に農薬の登録を取得し、さらに平成15年の適用拡大により作物のグループ化（野菜類、豆類（種実）、いも類）、センチュウのグループ化（ネコブセンチュウ⇒センチュウ類）、レンコンのスクミリンゴカイ防除が追加となりました。その後も平成20年に、ハクサイ・キャベツの根こぶ病登録を取得し、令和元年に水田一年生雑草の適用範囲が拡大となり、雑草イネや漏生イネの防除に使いやすくなりました。令和4年6月時点の農薬登録の適用は、表3-1のとおりです。

石灰窒素の農薬効果はシアナミドによるもので、その含有率をカルシウムシアナミドとして表示してあります。石灰窒素は品目により適用範囲が異なりますので、農薬として使用される場合は袋表示をよく読み適用範囲内でご使用願います。なお、下表は石灰窒素農薬登録の適用範囲を示しております

表3-1 国産石灰窒素の農業登録内容（令和4年6月現在）

作物名	適用病害虫名 (雑草)	使用量	使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	石灰窒素を 含む農業の 総使用回数
水稲	ユリミズ	40～60kg/10a	は種前又は植付前	1回	散布後土壌混和	-
	ザリガニ スクミリンゴガイ	20～30kg/10a	植代前		散布 荒起し後3～4cm に灌水し、3～4日後全 面に散布、3～4日放置 後植代を行う。(漏水を 防止すること)	
	スクミリンゴガイ		刈取後 (水温15℃以上の 時期)		散布 3～4cmに灌水し、 1～4日後全面散布、 3～4日放置する。(漏 水を防止すること)	
	ノビエの休眠覚醒 (湿田及び半湿 田)	40～50kg/10a	水稲刈取後 1週間 以内		全面散布	
水田作物 (水田刈跡)	水田一年生雑草	30～70kg/10a	は種前又は植付前		散布	
		50～70kg/10a	水田作物刈取後			
れんこん	スクミリンゴガイ	60～100kg/10a	植付前		散布後土壌混和 (7日間以上放置後植付を行う)	
はくさい キャベツ	根こぶ病	100～200kg/10a ^{*2}	は種前又は植付前		散布後土壌混和	
野菜類 ^{**}	センチュウ類	50～100kg/10a	は種前又は植付前		散布後土壌混和	
	一年生雑草	50～70kg/10a	は種前		散布	
麦類						
桑	カイガラムシ類 胴枯病	温湯10L当たり 400～800g/10a	7月下旬～10月上旬	上澄液を株又は枝条 の基部に散布する。		

作物名	使用目的	使用量		使用時期	本剤の 使用回数	使用方法	石灰窒素を 含む農業の 総使用回数
		菜量	希釈水量				
ばれいしょ ^{**}	茎葉枯凋	10～15kg/10a	100L/10a	茎葉黄変期	1回	茎葉散布(上澄液)	-
			-			茎葉散布	

×1 野菜類には豆類(種実、未成熟)、いも類が含まれます。
 ×2 対象剤は石灰窒素50(粉)のみです。
 ×3 作型、品種、土壌条件に応じて使用量を決めてください。